

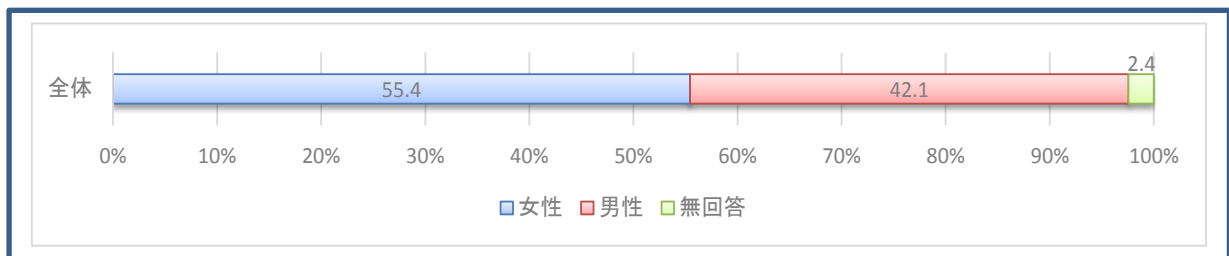
平成 30 年度 鈴鹿市 男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書〔概要版〕

■調査のあらまし

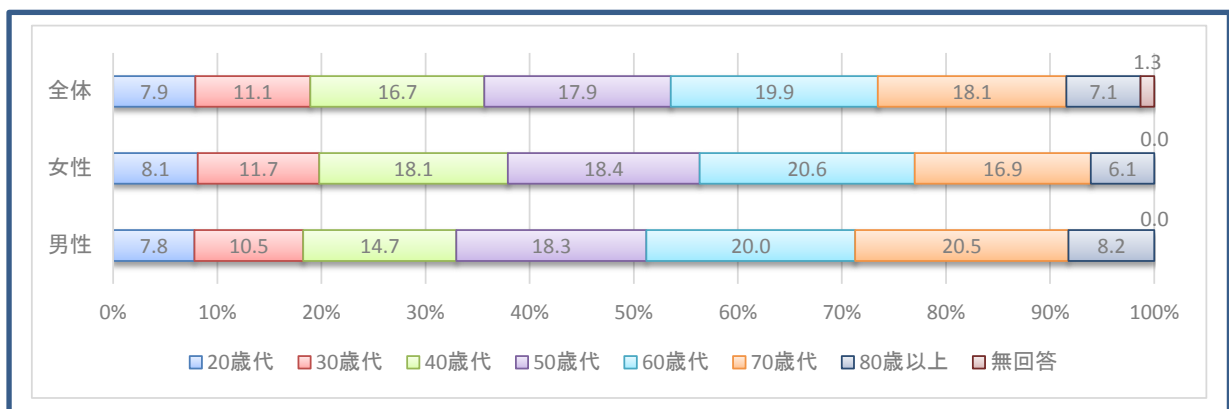
調査の目的	男女共同参画の進捗状況及び市民の意識や生活実態を把握し、今後の施策を効果的に推進するための基礎資料として活用するため。
調査の対象	市内に居住する 20 歳以上の男女 3,000 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布及び回収
調査期間	平成 30 年 10 月 5 日～10 月 31 日
有効回答数	1,066 件（女性 591 件、男性 449 件、無回答 26 件）、回収率 35.5%

調査対象者の属性

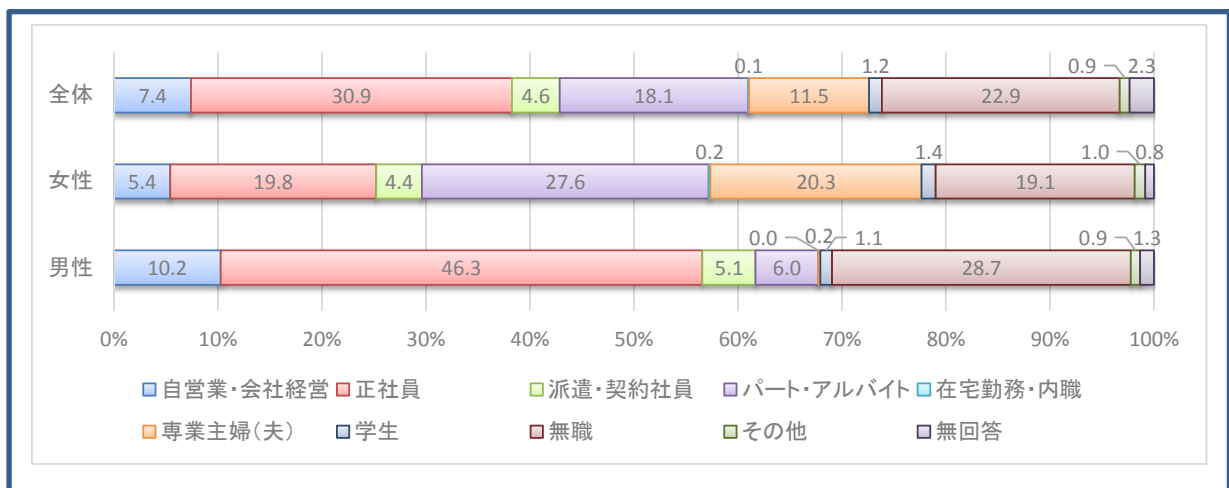
■性別



■年齢

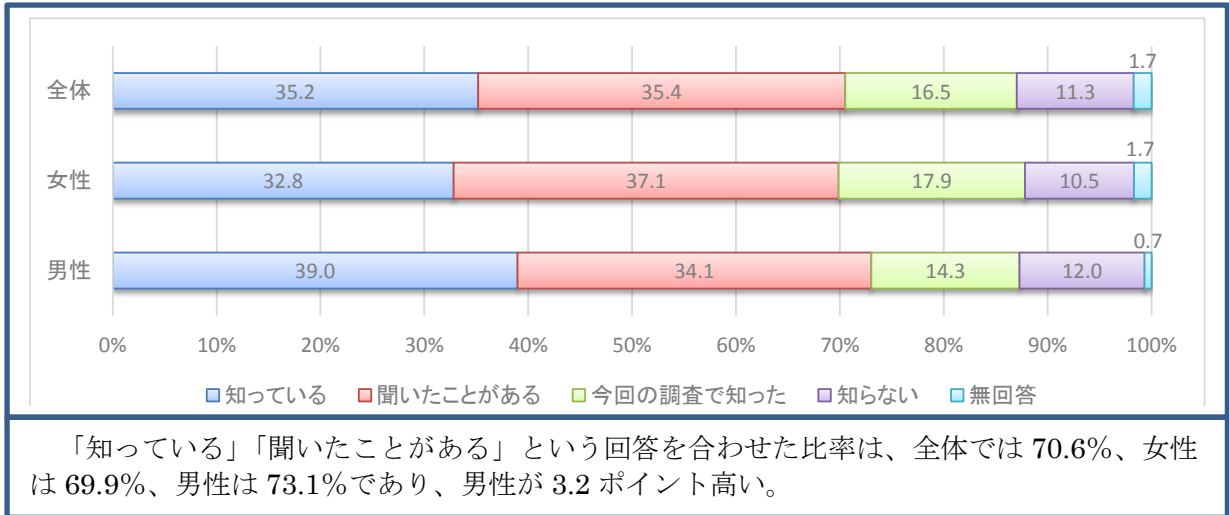


■職業

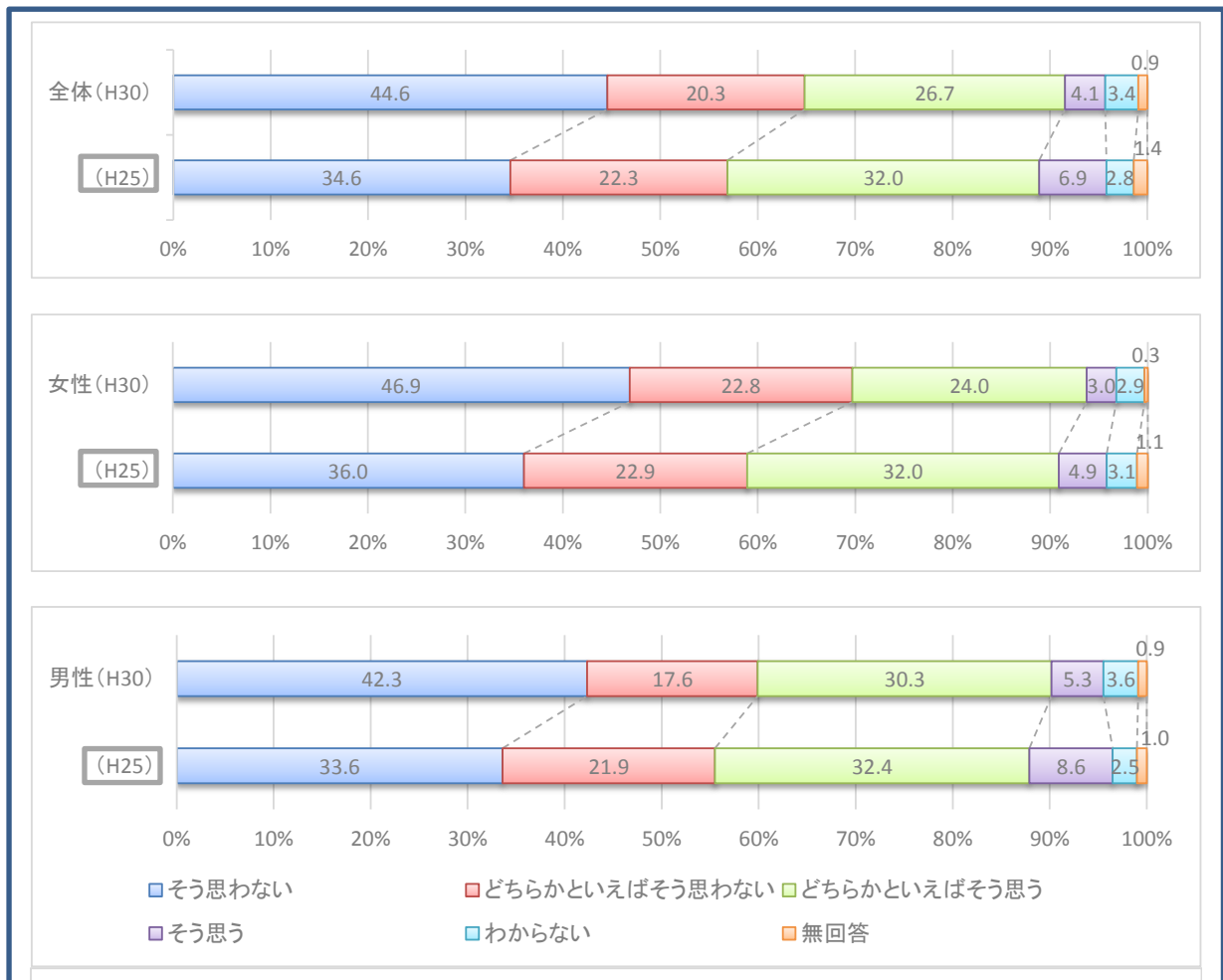


1 男女共同参画全般について

1. 「男女共同参画」という言葉の認知度

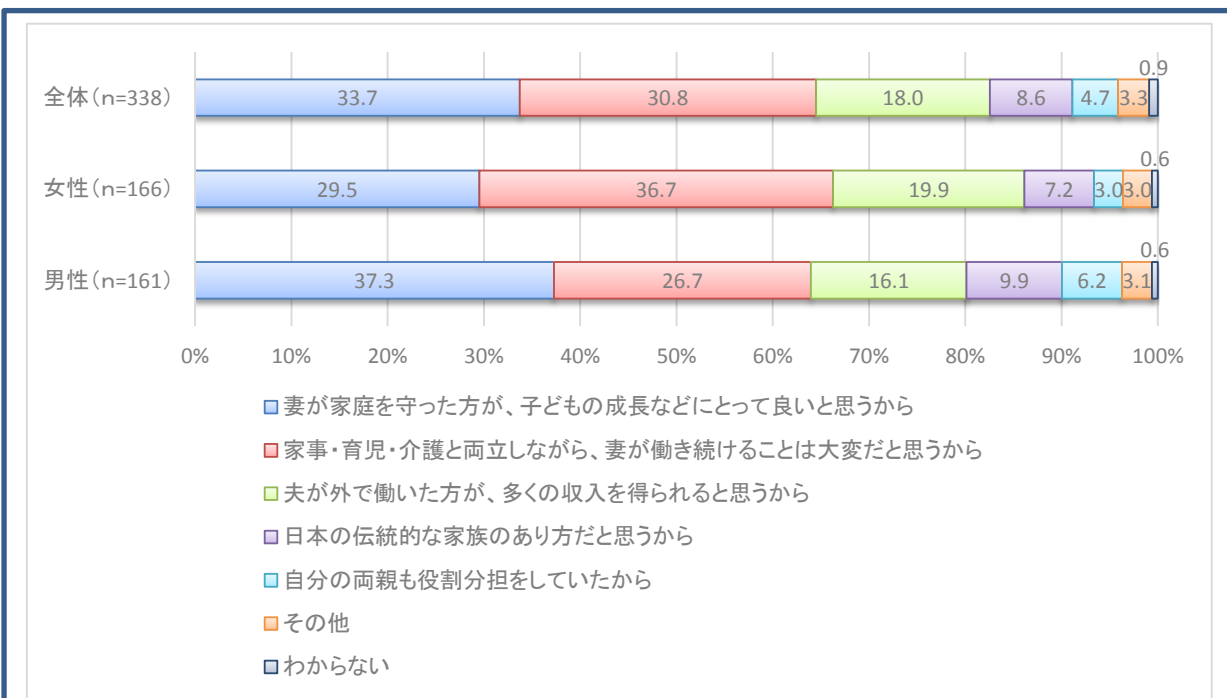


2-1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方〔固定的性別役割分担意識〕 (平成 25 年度 前回調査との比較)



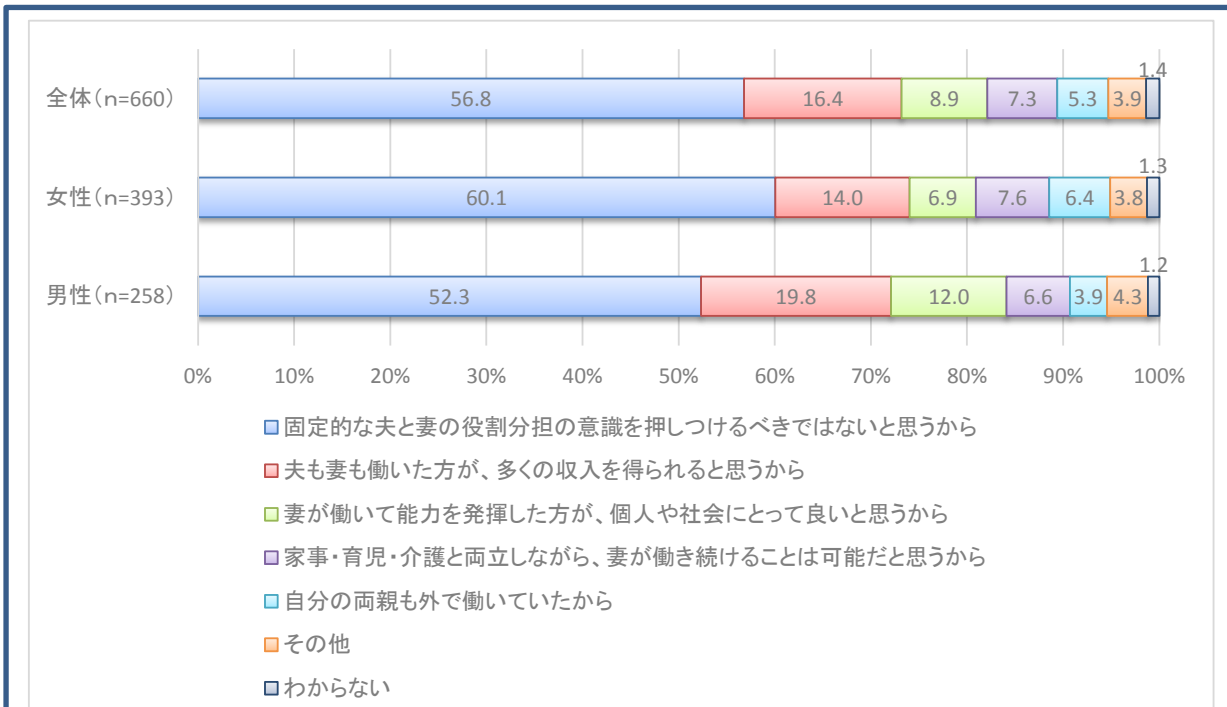
固定的性別役割分担意識に否定的な「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という回答を合わせた比率は、全体では 64.9%、女性は 69.7%、男性は 59.9%であった。
平成 25 年度の前回調査では、全体では 56.9%、女性は 58.9%、男性は 55.5%であり、比較すると、全体では 8 ポイント、女性は 10.8 ポイント、男性は 4.4 ポイント増加しており、男女共同参画の意識の普及が進んでいると言える。

2-2. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に、同感する理由



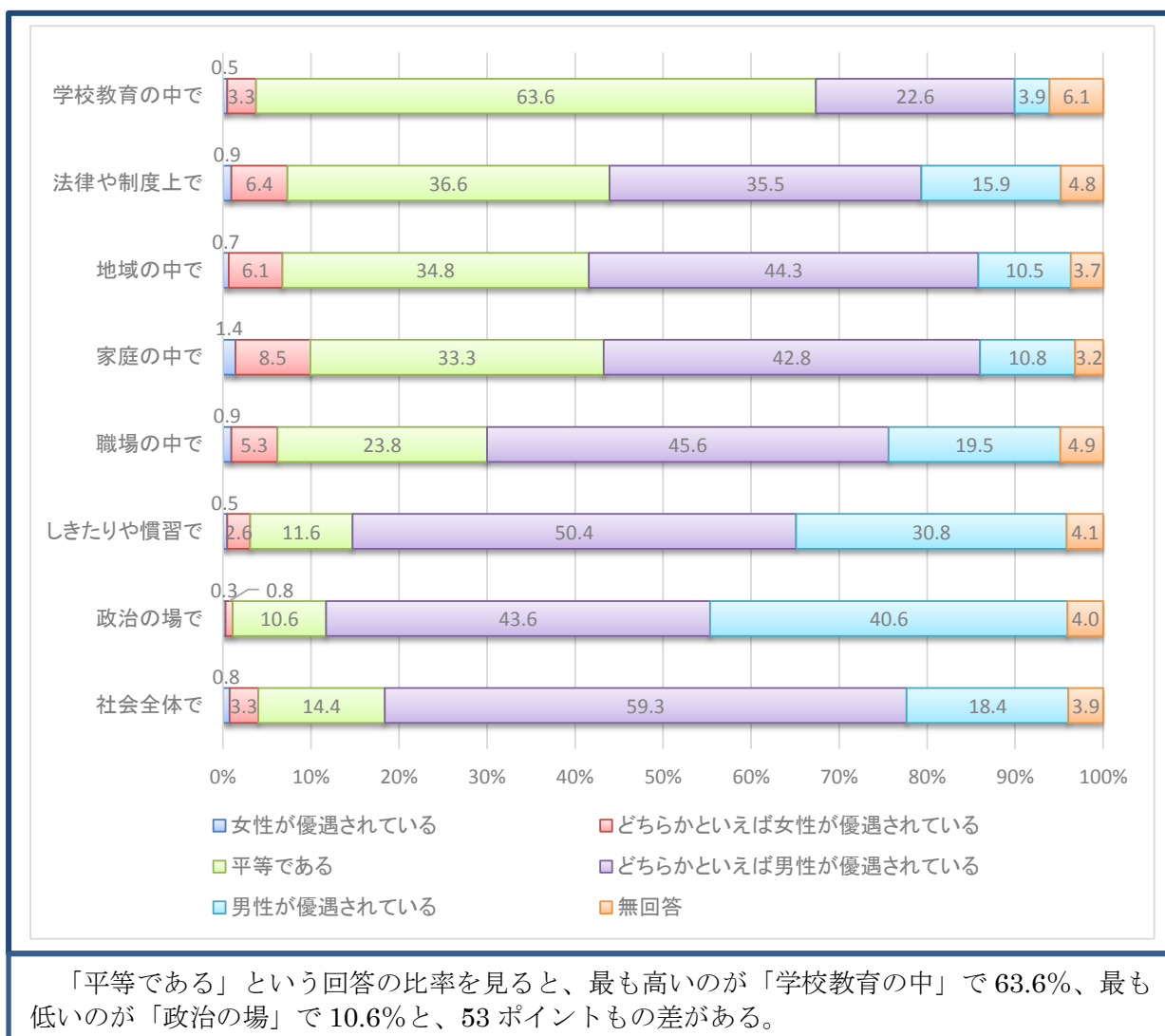
「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにより」「妻が家事・育児・介護と両立しながら働き続けることが大変」という回答を合わせた比率が64.5%と多く、家事・育児・介護は女性がするべきという考え方の人が多いと言える。また、男女を比較すると、「妻が家事・育児・介護と両立しながら働き続けることが大変」という回答が女性の方が10ポイント高く、両立の困難さの感じ方に差があるということが分かる。

2-3. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に、同感しない理由

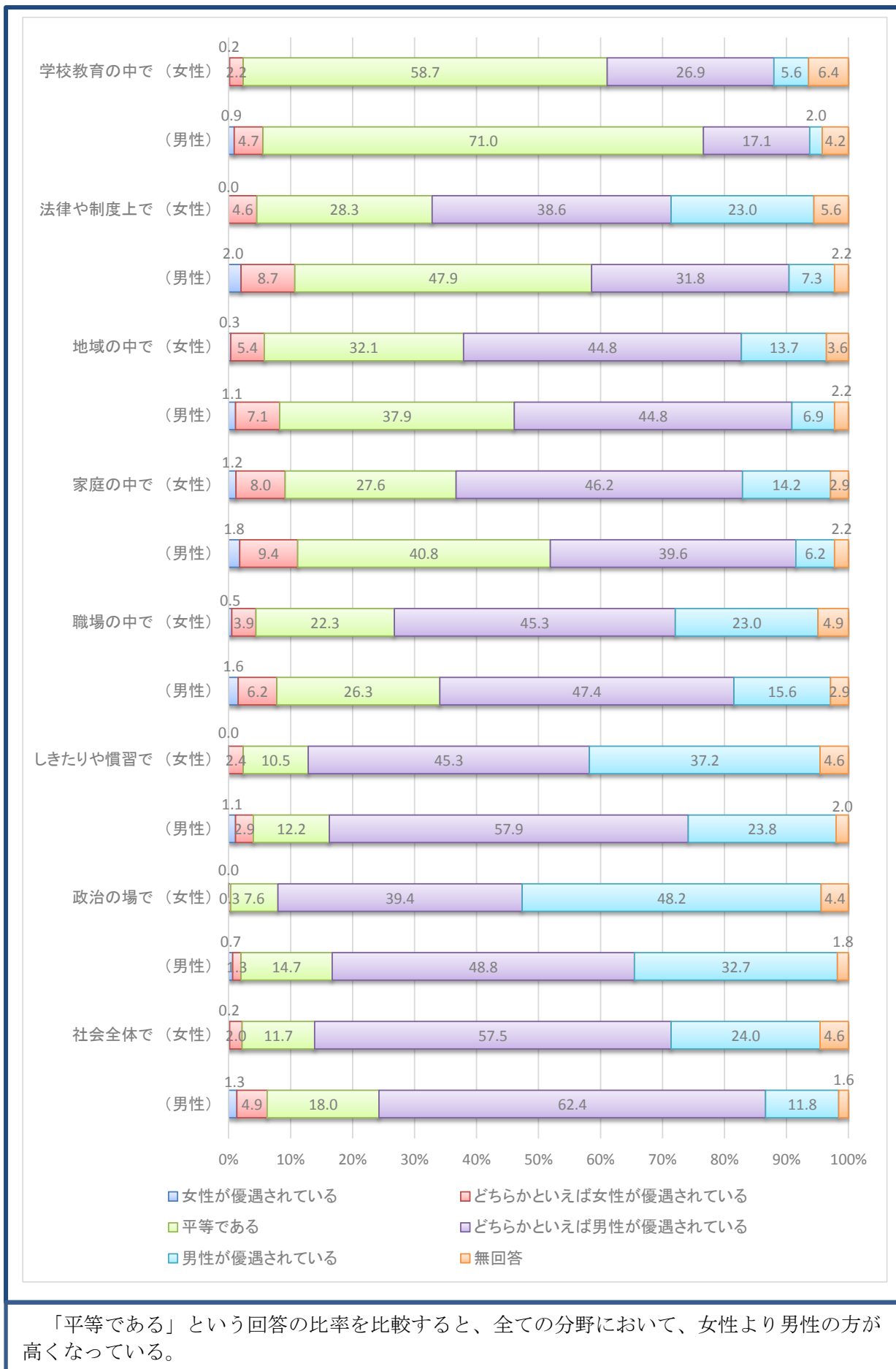


「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではない」という、男女の固定的役割分担意識を明確に否定する回答が56.8%と半数以上ある。男女の比較では、その比率は女性の方が7.8ポイント高くなっている。

3. 各分野において男女の地位が平等になっていると思うか（全体）



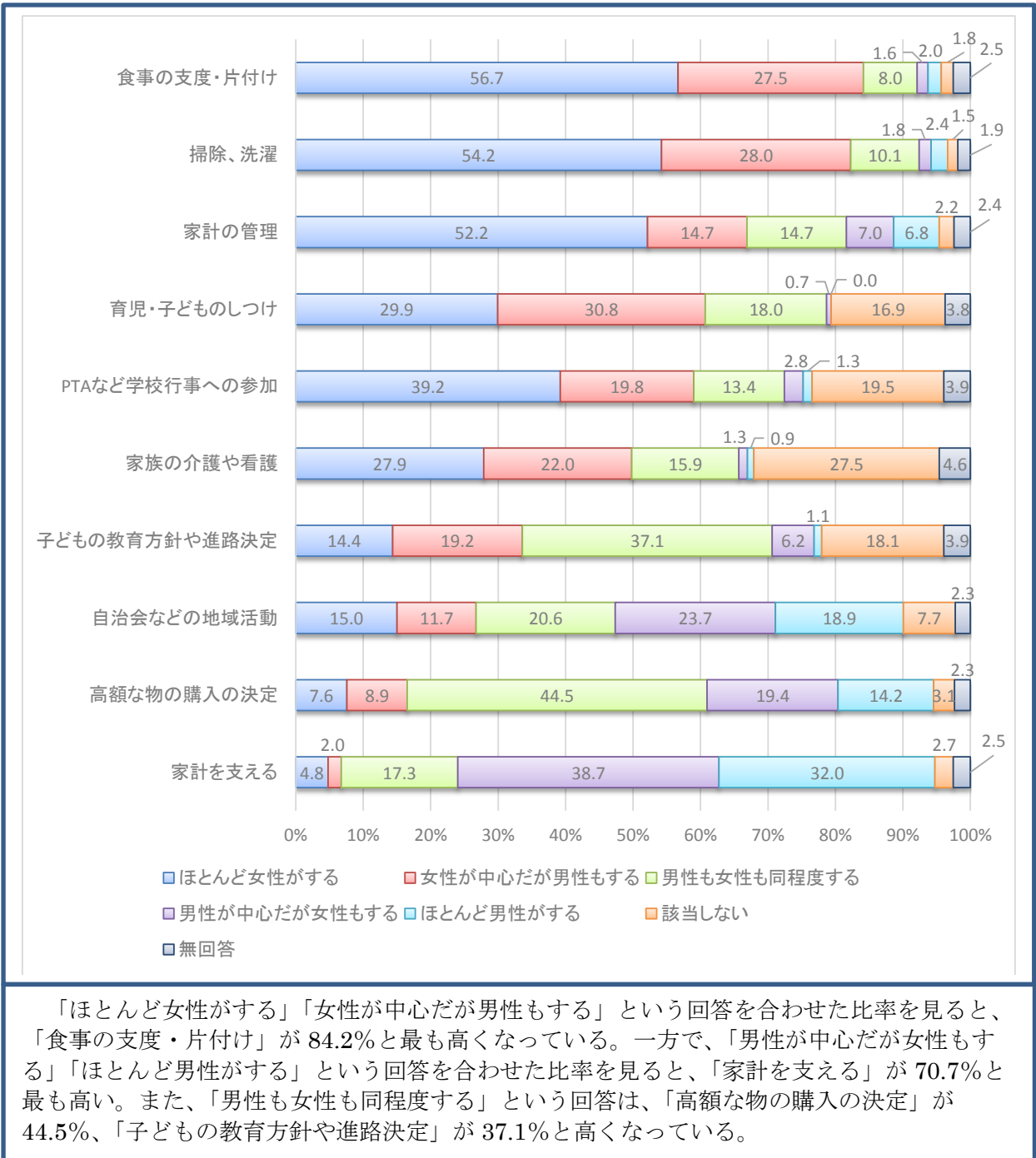
3. 各分野において男女の地位が平等になっていると思うか（男女比較）



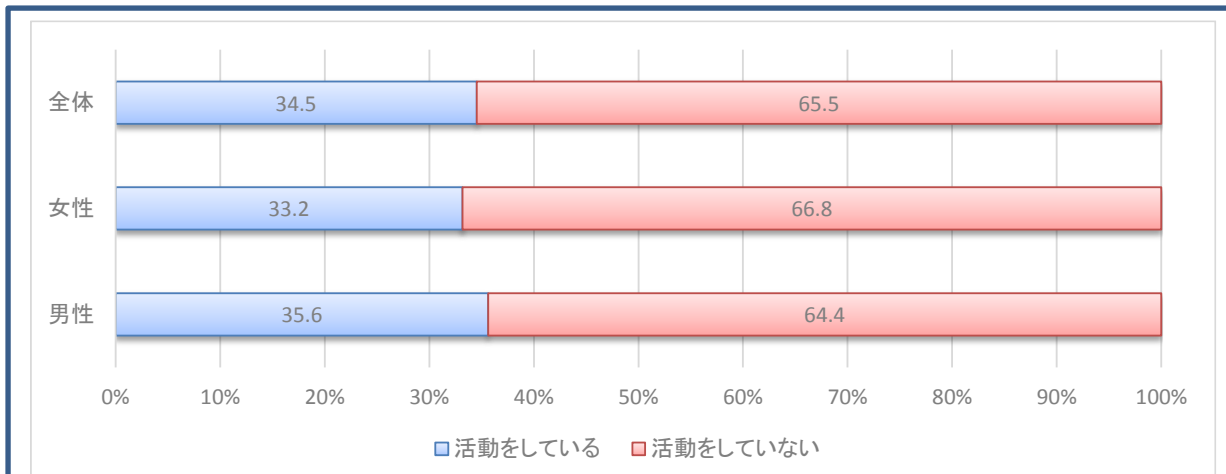
「平等である」という回答の比率を比較すると、全ての分野において、女性より男性の方が高くなっている。

2 家庭生活・社会活動について

4. 家庭での男女の役割分担

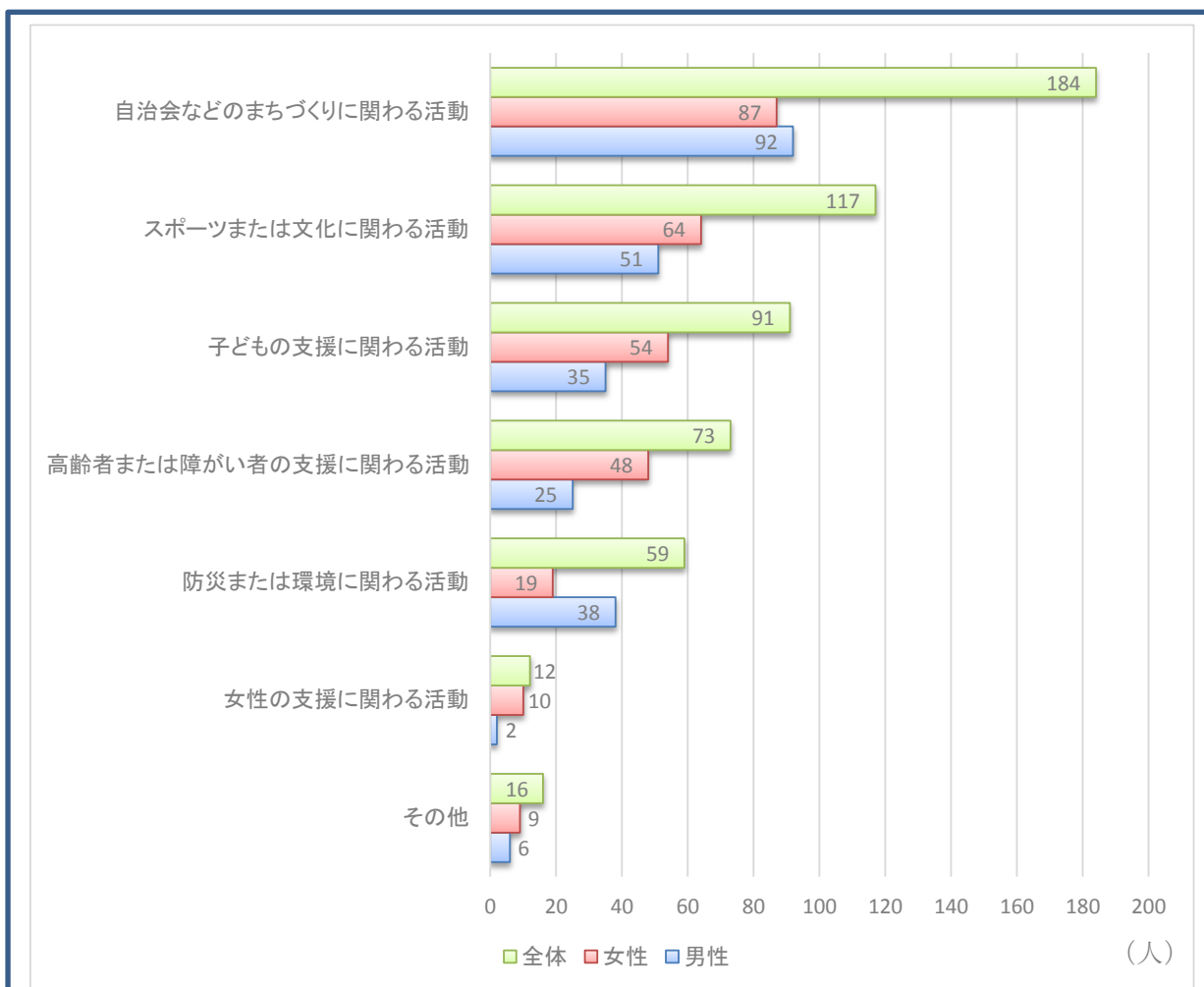


5-1. 地域活動を行っているか



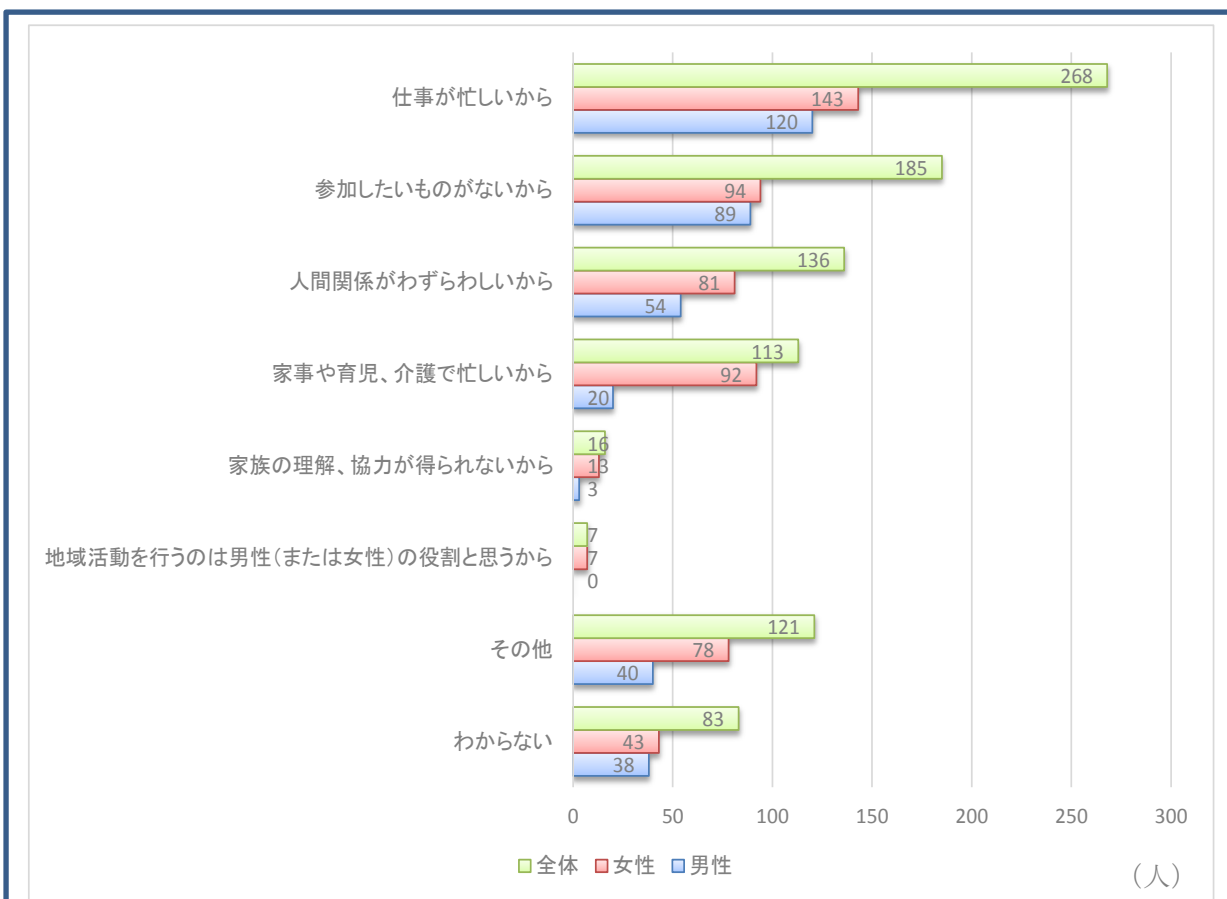
「活動を行っている」という回答の比率が34.5%、「活動をしていない」が65.5%。男女の比較でも大きな差はない。

5-2. どんな活動を行っているか（活動をしている方の複数選択による）



「自治会などのまちづくりに関わる活動」が最も多く、「スポーツまたは文化に関わる活動」がそれに続く。男女の比較では、女性は「子どもの支援に関わる活動」や「高齢者または障がい者の支援に関わる活動」が多く、男性は「防災または環境に関わる活動」が多くなっている。

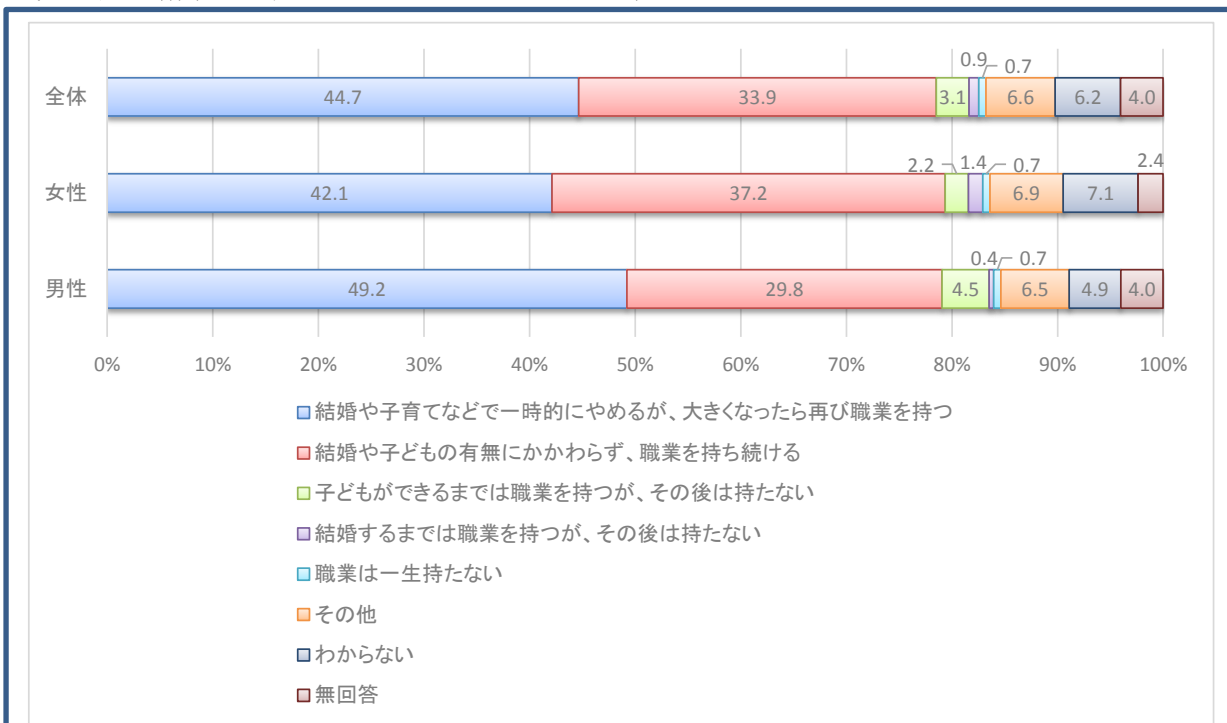
5-3. 活動に参加しないのはなぜか（活動をしていない方の複数選択による）



「仕事が忙しい」という理由が最も多い。男女の比較では、「家事や育児、介護で忙しい」という回答が、男性より女性が遥かに多くなっている。

3 就労・職業について

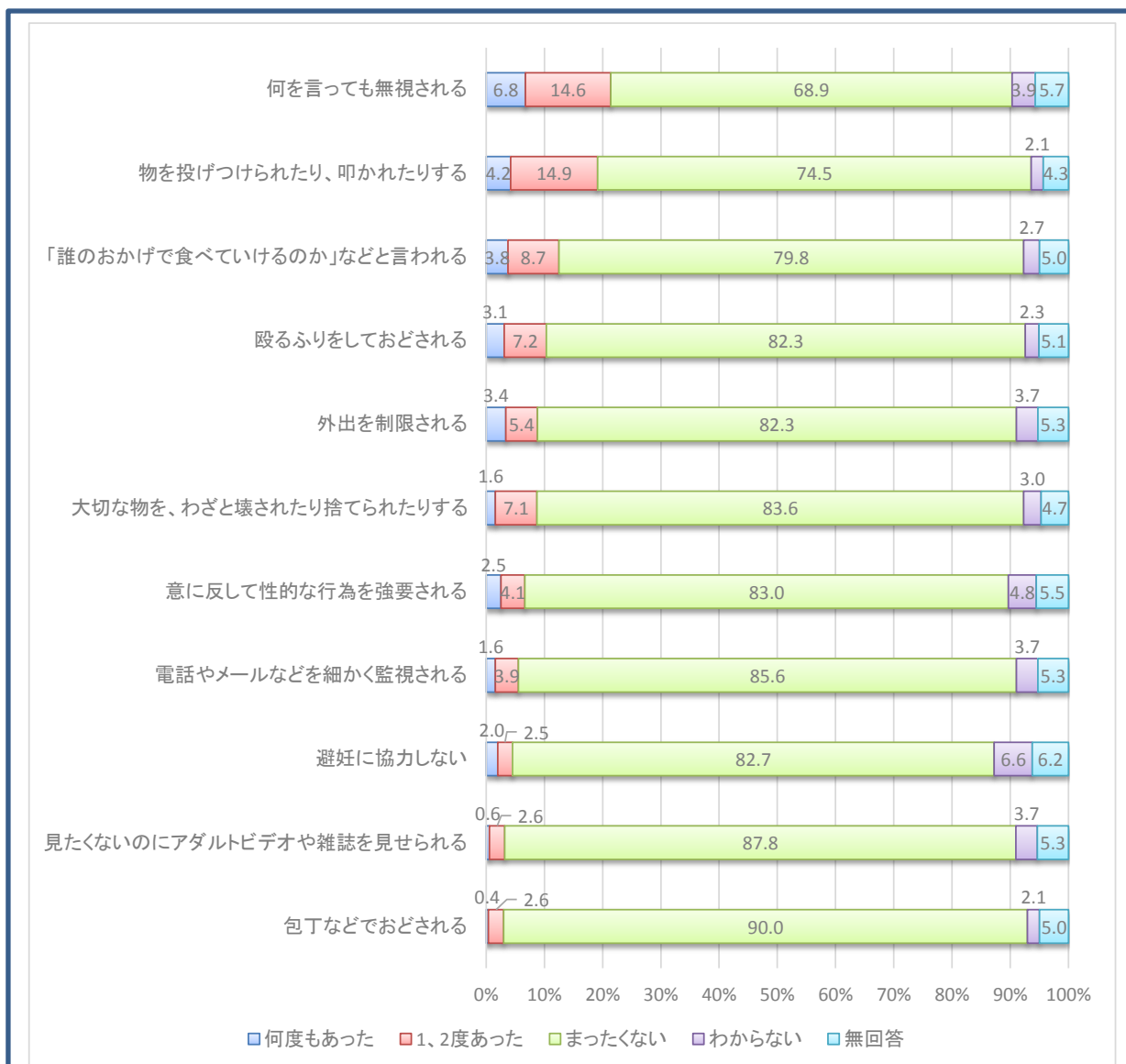
6. 女性の職業への関わり方はどのような形が最も望ましいと思うか



「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、大きくなったら再び職業を持つ」が最も高く、「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持ち続ける」がそれに次いで高くなっている。

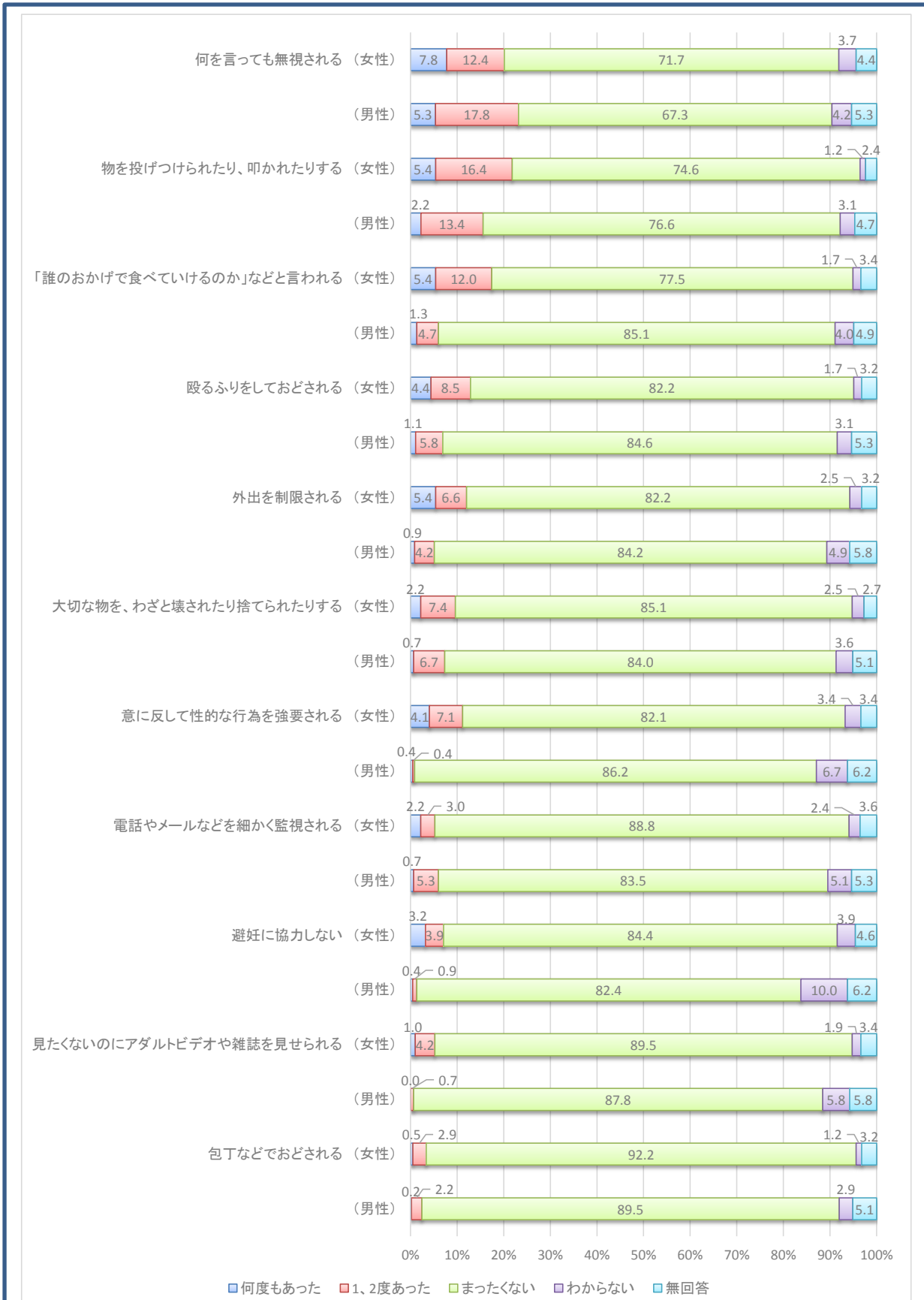
4 DV、セクシュアル・ハラスメントについて

7. 配偶者や恋人など親しい関係にある人から次のようなことをされたことはあるか。 〔DVについて〕(全体)



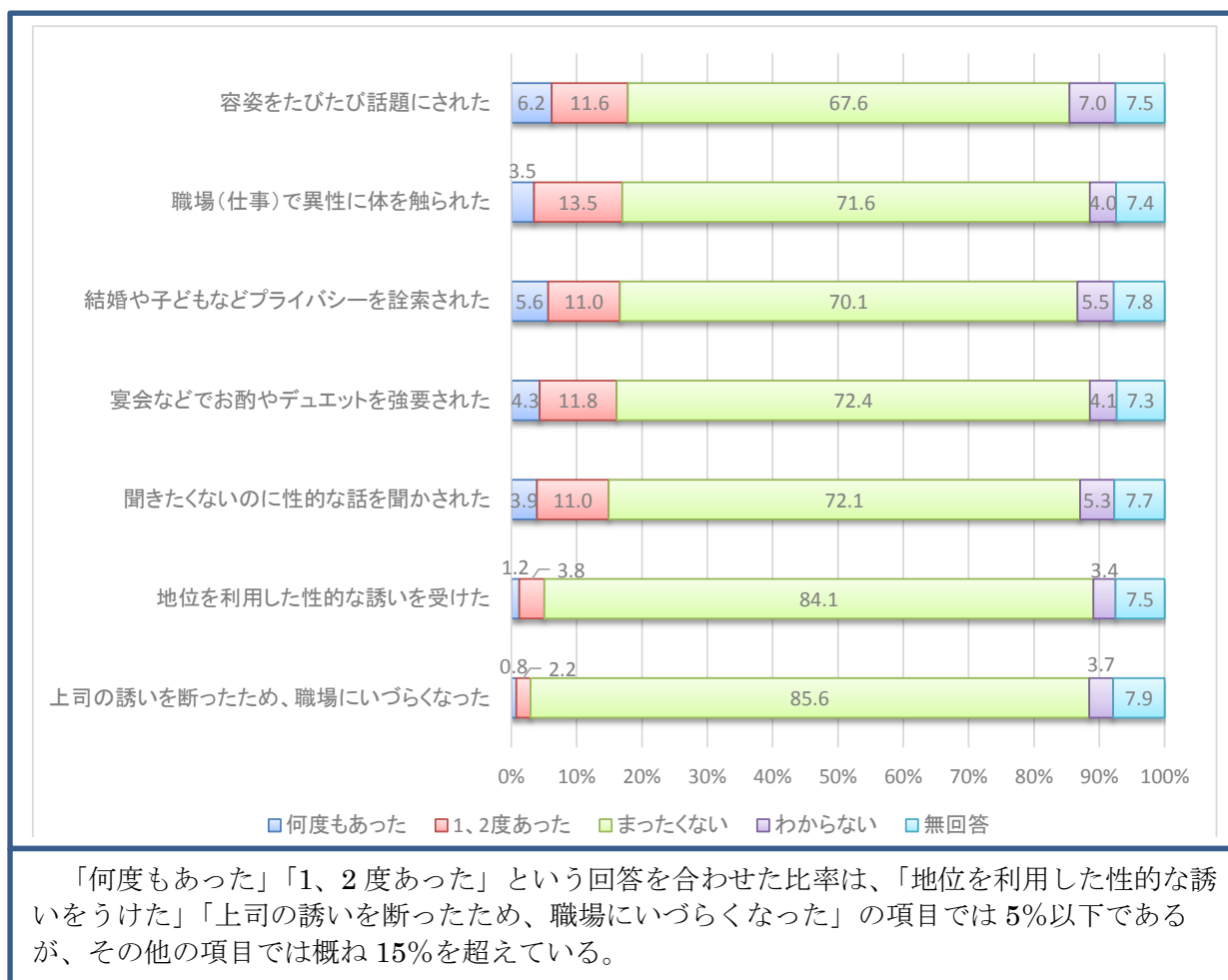
「何度もあった」「1、2度あった」という回答を合わせた比率は、「何を言っても無視される」と「物を投げつけられたり、叩かれたりする」という項目で高くなっている。

7. 配偶者や恋人など親しい関係にある人から次のようなことをされたことはあるか。
〔DVについて〕（男女比較）

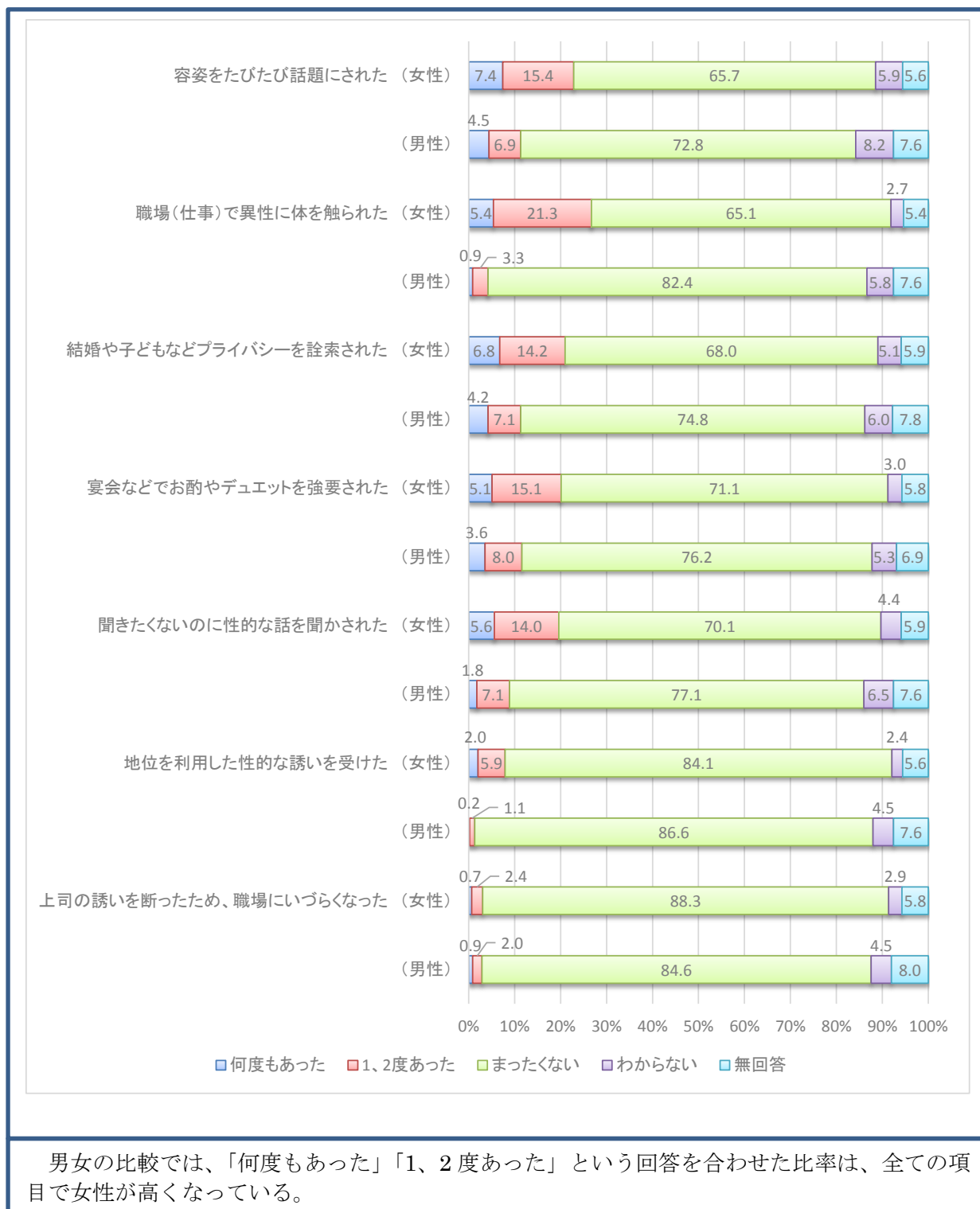


男女の比較では、「何度もあった」「1, 2度あった」という回答を合わせた比率は、「何を言っても無視される」「電話やメールなどを細かく監視される」の項目のみ男性が高く、その他の全てにおいては女性が高くなっている。

8. 配偶者や恋人など親しい関係にある人から次のようなことをされたことはあるか。
〔セクシュアル・ハラスメントについて〕（全体）



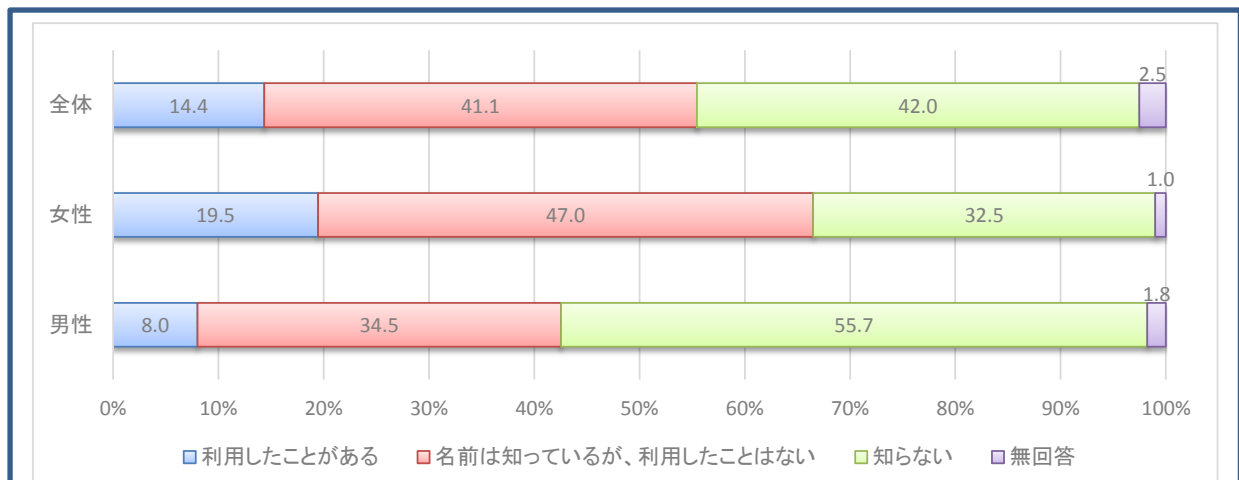
8. 配偶者や恋人など親しい関係にある人から次のようなことをされたことはあるか。
〔セクシュアル・ハラスメントについて〕（男女比較）



男女の比較では、「何度もあった」「1、2度あった」という回答を合わせた比率は、全ての項目で女性が高くなっている。

5 鈴鹿市男女共同参画センターについて

9. 「鈴鹿市男女共同参画センター ジェフリーすすか」の認知度



「利用したことがある」という回答の比率が14.4%、「名前は知っているが、利用したことはない」が41.1%と、合わせて55.5%の人に認知されている。一方、「知らない」という回答が42%あり、特に男性においては55.7%と、半数以上の人に認知されていない。